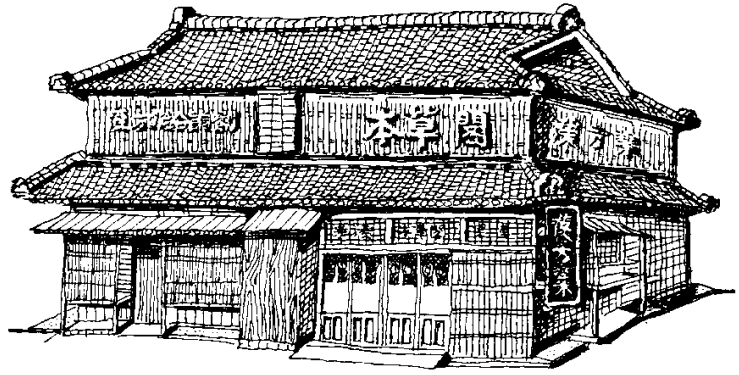


# 本草閣 かわら版

第63号

平成15年10月15日発行



漢方の本草閣 本店  
〒460-0012  
名古屋市中区千代田5-21-17  
(JR 鶴舞駅西)  
JR中央線・地下鉄 鶴舞駅下車  
TEL 052-241-3388  
FAX 052-241-3443

漢方の本草閣 緑店  
〒458-0016  
名古屋市緑区上旭1-622  
(滝の水公園西)  
名鉄バス滝の水口下車 徒歩約5分  
TEL 052-899-0221  
FAX 052-899-0236

<http://www.honsoukaku.co.jp/>  
E-mail: kanpou@honsoukaku.co.jp

<http://www.honsoukaku.co.jp/>  
E-mail: midori@honsoukaku.co.jp

## 帯下 (おりもの)

おりものを漢方では「帯下」(たいげ)と言い、生まれた時からあるもので思春期以後量が増えます。普通は乳白色をしていますますが量がいつもより多いとか色が変わると異常とみなされます。

代表的なものとしては、黄色を帯びたものは白帯下(気の不順が原因)、血液が混じり茶色っぽい、あるいは黒っぽいものを赤帯下(血の不順が原因)と言い、初潮時・出産時の冷え・精神的動揺・産後の不養生などから起こります。

おりものの異常は婦人病の第一段階です。

膣炎・子宮筋腫・子宮癌・子宮頸管炎・子宮腔部びらん・頸管ポリープ・など色々な病が考えられます。

量が増えたり・濃い色になったり・臭いが強かったり・痒みを伴ったりしたら婦人科に相談しながら漢方薬の併用をお勧め致します。

帯下の症状のみならず、生理の具合・冷え性・便秘・体格・性格・既往症・食欲・食事の好み・口渇・暑がり寒がり・・・等でお渡しする漢方薬が変わります。漢方薬に詳しい薬剤師にご相談下さい。

[文責 林 譽史朗]

# 民間薬よもやま話

## 第11回 タラの木（惣木）<sup>そうぼく</sup>：ウコギ科

『本草綱目啓蒙』に『ツノオトシという。鹿が角を落とす時節にこの葉を出す故なり。また、鹿この芽を食うて角を落とすともいう』とあり、別名としてタロウノキ・タロノキと人名の太郎を連想させる名所があります。

幹皮、根皮を秋、または3月頃に採取して、水洗いして刻み、日干しにします。根皮の方が幹皮より薬効はよく、糖尿病には根皮をおすすめします。

薬効は建胃、整腸、強壯の効果があり、胃腸病に用いられます。また、糖尿病にも貴重な薬草としてよく用いられていますが、『一位』、『かきどうし』、『蕃果』と一緒に煎じて服用することにより、糖尿病により効果的に働きます。飲み方は、1日量として水1～2Lにそれぞれ10g程度入れて服用します。

タラの木の芽は山菜の中でも大変よく知られており、山のバターと呼ばれるくらい多くの油脂、タンパク質を含み、栄養的にも価値の高いもので、昔から初春の重要な食べ物でした。

### タラの芽を使った山菜料理

- ①木の芽あえ：タラの芽をこしのなくならないように熱湯でさっとゆで、適当な大きさに切り、サンショウの芽をよくすりつぶして、白味噌とみりんを加えてあえます。
- ②ごまあえ：すりごま、しょう油、みりんを用います。
- ③天ぷらなど

## 第3回 皮膚の乾燥・かゆみを緩和させる浴湯料

冬場は冷たい空気と空気の乾燥に伴って、だんだんと皮膚の乾燥を起こしやすくなっていきます。皮膚の保湿がなくなり、皮膚のバリア機能が損なわれると、ほんの少しの外部からの刺激でかゆみと炎症を頻繁に引き起こしてしまいます。今回は皮膚の乾燥を防ぎ、かゆみと炎症を抑える浴湯料を紹介します。

- ・当帰（トウキ）：血液の流れをよくします。
- ・茵陳蒿（インチンコウ）：かゆみと炎症を抑えます。
- ・地黄（ジオウ）：皮膚に潤いを与えます。

以上の3種類をそれぞれ10gほど浴槽に入れ、普段と同じように入浴するだけで、皮膚の乾燥によるかゆみと炎症を抑えてくれます。

〔文責 山口 真広〕